

八峰CS通信

平成29年度
第 13 号
H29/10/5 文責
CSデイルター
川尻

学校運営協議会委員の方からの御意見

子どもたちの

つながりを求めて

丁藤 哲弥

としよりの活動で子どもたちと深く関わるようになったのは、十数年前のある町の出来事がきっかけであったと思っ

た。それまでは祖父母の立場で自分の孫の世話をしていただけであつたのが、ふるさと学習の体験活動の一つとして農作業や花壇づくりのお手伝いなど

に手が広げられた。ところがある事以来、地域の子どもたちの登下校の見回り

が主になっていった。しかし、学校統合などで通学の様子が大きく変わり、バス通学になってからは、せいぜい朝夕のあいさつ程度になっている。かつては、ことぶき大学の一日体験入学でさまざまな交流も出来たが、今は学校規模の関係から学習発表会の参観だけに

なつてしまった感じがである。

そこで、今後子どもたちととしよりのつながりがどんなこととつながりを深めてい

たらよいかを考えてみた。

地域の子どもの数が少なくなっているだけに、まず子どもの名前を覚えることから始めたい。よくあいさつしてくれるので、あいさつにとどまらず名前を呼んで声かけし

て、更に学校の出来事や身の回りのことなどを話題にして、お互いに気持ちをつなげていくように努めていけたらいいなあ！

一年に一度でもよいから地域の子もたちと一緒に、何かできることを見つけて交流できたら、きつと地域の良さをとしよりの考えも分かつてもらえるのでは。地域の集会所などで、地域の子供会を開くなど出来たらいいなあ！勿論地域の人たちを交えて。

現在も行われているが、としよりと一緒に学

習の環境として学校で活動する機会をもつと増やしていけたら楽しいだろうな！としよりは知恵や技を生かせる場として、としよりも生きがいを感じるだろうし、子どもにはとしよりを大切にする気持ち

が深まるのでは。こんな事を夢見ている。

おとしよりと子どもたちのつながりを深める3つの夢（提案）。ぜひ実現させたいです。（川尻）



和太鼓演奏で始まった学習発表会。たくさん保護者・地域の皆さんに元気な発表を披露（八森小）

学校運営協議会委員の方からの御意見

塚本 一也

実りの秋となりましてが子供達もすくすくとたくましく成長しております。今年は六十五名の新成人がここ八峰町に誕生しております。置かれた状況がそれぞれ違つても町のために社会貢献したいと力強く語られた新成人に感動を覚えます。子供達に感動や勇気をい

ただき育てられていたのは我々大人です。現代においては学校教育もデジタル化が進みPCやIT、子供達の方が進んだ教養を身に付けているのではなからうかと、我々は目線を

ぐつと低くして教わる側の生徒となりうることを素直に受け入れていきたい。世代を超えてたコミュニケーションで子供達と共に生涯学習となればと思います。

先生と生徒の関係は必ずしも大人と子供ではなく、時には先生が子供、親が地域の人々が得意な分野を教えあいふれあう。また、大いなる八峰の自然が学校となつて育む。そんな企画をますます増やせればと思います。

大人も子供から、子供と共に学ぼうという姿勢によりみんなが楽しめるCS活動にできそうです。（川尻）

JA青年部の指導で自分たちが植えた稲を収穫（峰浜小）



10月を迎え、今年度も後半戦、各校とも日常の授業や地域での体験活動などにより、教育目標具現に向けた指導が充実しているようです。CSも子どもたちのため、地域のために充実を図りたいと思つていきます。

町内14カ所の職場に分かれ勤労体験（八峰中）



保護者や全校児童に応援されて元気にゴール！マラソン記録会（峰浜小）



漁協見学。タブレットで撮影し学習に生かす（峰浜小）

